

平成 25 年度  
自己点検・評価報告書

目白大学短期大学部

(1) 特筆すべき事項

〔教育〕

- ①初めての「ベーシックセミナー」の運営に各学科それぞれの工夫をし、成果を上げた。試行錯誤しながらではあるが、科目の狙いは概ね達成できたと考えられる。  
主なものは、グループワークを積極的に取り入れたことにより、主体的・自律的な学びの実践を通して学生満足度が向上した。「ベーシックセミナー」で使用するオリジナルワークシートを作成した学科もある。
- ②学生に課題を出す等で自宅学習の促進に工夫をした学科もある。
- ③「主体的な学び」と「知識の定着」のため、小テストや自宅学習を促進したなどの工夫をした教員が多数いる。
- ④「インターンシップ」科目を導入してから4年目に入り、定着してきている。ビジネス社会学科では1年生の約半数が履修している。  
これは職業教育、キャリア教育の面からも成果を上げたと言える。
- ⑤学科内の教員が情報を共有しながら、学生個人に合わせた知識の伝達・技術の伝達に努めている。
- ⑥検定取得のため、教員が時間外講座や勉強会を開いている。学生の質の変化で、教科の正規の時間内では検定取得のレベルまで達しないためでもある。

〔研究〕

- ①短大創立50周年の紀要であったため、多くの投稿があり(22件)教員の研究成果も上がった。
- ②科学研究費の取得も継続の者が2件、学会誌への投稿も3件あり、徐々にではあるが、定着してきている。
- ③海外研究者との共同研究プロジェクトを組織、海外の教育施設の調査等も行い、研究を促進している。
- ④製菓学科ではレシピ作成、イベントへの出店等を積極的に行った。

〔学生指導〕

- ①短期大学部として、遅刻、欠席についてのガイドラインを作り学生指導を徹底させた。遅刻、欠席が減少してきている。
- ②学生個々のサポートをクラス担任、ゼミ担任がこまめに行っている。また、学生の必要な情報は学科の教員が共有するようにしている。
- ③保護者会等を通じて保護者にも学科の方針を理解していただき、大学、保護者がそれぞれの側面から学生を指導している。
- ④就職活動については、学生個人のサポートを教員がきめ細かく指導、相談に乗っている。就職率も全国平均を上回った。正社員としての就職も多く質も向上してきている。

〔社会貢献〕

- ①製菓学科では、「販売実践」のお菓子の売り上げを東日本大震災への義援金としての寄付を続けている。
- ②「大学は美味しい!!フェア」への参加や「菓子作り体験教室」の実施を通じて、地域社会に「菓子作り」の楽しさ、意義を広めている。
- ③東日本大震災被災地でのボランティア活動などのサポートを行った。

〔組織マネジメント〕

- ①第三者評価(平成26年度受審)に向けて、準備委員会を組織し短大全体で取り組んでいる。
- ②短期大学創立50周年記念事業を実施した。全教員が積極的に協力し成果を上げることができた。
- ③各学科連絡会、学科会議等を通じて教員がよく連携できてきている。
- ④3学科の学科長、中期計画委員を中心に「中期目標・中期計画」を策定した。この過程を通じて学科での教員相互の意思疎通がスムーズになった。

(2) 今後の課題

〔教育〕

- ①基礎学力が不足している学生の対応については教員が工夫をしながら対応したが、なかなか成果は得られず今後の課題である。
- ②学力差がある学生に対する授業展開をどのようにするのが良いか、困難を感じている。
- ③ワークシート、小テストなどの結果を学生にフィードバックするのが十分でなかった。時間的な課題が残る。
- ④卒業研究に対して、意欲的な学びを引き出すことが難しい学生に対する方法が見つからない。

〔研究〕

- ①学会の研究会等への出席が少ないようで、学会活動は低調である。効率の良い校務を心がけ研究の時間確保が課題である。
- ②特別研究費、科学研究費の申請を促進する仕組みを構築する必要がある。
- ③平成25年度は紀要の投稿はほぼ全教員であったが、今後、継続する方策を考える必要がある。

〔組織マネジメント〕

- ①3学科とも各種委員と学科長との連携がスムーズではなく、齟齬をきたしている状態がある。連携をうまくとる方策を考える必要がある。
- ②学生募集に3学科とも苦戦している。短期大学部としてより一層この課題に取り組むことが必要である。
- ③科目内容をより充実するために3学科の連携をより強める必要がある。
- ④学科長との連絡を密にし、短期大学部の将来計画を進めていく。
- ⑤生活科学科において、厚労省への届け出が毎年滞りがちである。計画的に進める仕組みの構築が必要。
- ⑥介護福祉関係の書類の保管が明確ではなく、保管状態を明確にする必要がある。
- ⑦卒業生との連携をよりいっそう深めていく。製菓学科においては『卒業生の集い』を毎年開催されている。卒業生からの就職の斡旋も見受けられ、良い成果が上がっている。

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	生活科学科
--------------------------	----------	--------------	-------

項目	自己評価
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「ベーシックセミナー」にグループワークを積極的に採り入れたことによる、主体的・自律的な学びの実践</li> <li>②その他の授業でも、主体的な学びのために、双方向の授業を心掛け、講義内容や宿題、授業中のワークシートなどを工夫</li> <li>③知識の定着及び自宅学習の推進を目指しての小テストの実施</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ワークシートや小テストの結果が完全にはフィードバックしきれなかったこと</li> <li>②学力差・技術の差の大きな学生の混在により、同一内容の授業展開が不可能な場合における、さらなる工夫と改善</li> </ul>
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①『目白大学短期大学部 紀要』第50号に、生活科学科教員10名（特任と助手を含む）中、9名が論文を発表（共著を含む）するなど、学内における論文発表は活発であった。</li> <li>②特別研究費及び科学研究費の申請者がいなかった。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学会の研究会等への出席回数が全体的に少なく、学外的な学会活動は低調であると言わざるを得ない。</li> <li>②若手を中心に、特別研究費や科研費等の獲得を目指して研究を行うことが必要。</li> <li>③短大50周年記念号としての『目白大学短期大学部 紀要』への執筆というような特別な意識が無くなった後の、平成26年度以降も継続的な投稿がなされるかが大きな課題である。</li> </ul>
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①クラス担任やゼミ担任は、既定の個人面談の他、必要時には随時面談をおこない、学生の把握と精神的フォローに努めた。</li> <li>②遅刻・欠席が目立つ学生にはメールで出席を促し、基本的な生活習慣の改善と精神的なフォローを根気よく行った。</li> <li>③目をかけ、手はなるべく出さない方針で、自立・自律を促す。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①就職に積極的でない学生をどう動かすかは、今後の大きな課題である。</li> <li>②東京都委託生については3月に入っても就職先が決まらない学生がおり、就職支援については反省すべき点がある。</li> <li>③授業に関する学生指導はどの教員も行っているが、就職支援や遅刻・欠席等の基本的な習慣に対する学生指導における教員間の温度差をなくす。</li> </ul>
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教員4名が各々複数のことを行っており、全体では1ページに明記した通り、社会貢献関連6項目中4項目に、12件関わっている。</li> <li>②特に東武百貨店との産学連携事業では、担当教員がフードフィールドのゼミ生を中心にした学生を指導して参加した。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①地域連携事業等、上記4項目以外の社会貢献の項目にも係ることを目指す。</li> <li>②特定の教員だけでなく、できるだけ多くの教員が社会的貢献の各項目に関わるよう促すことが必要</li> </ul>
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①副学長兼学科長の指導の下、各委員は自分の職務を遂行することに努め、全体としては、まずまずの状態であった。</li> <li>②カリキュラム改定により加わった「ベーシックセミナー」及び形を変えたフレッシュマンセミナーを、グループワークを中心にした新たな授業の実践ととらえて、教員全体で取り組んだ。</li> <li>③第三者評価に関して、短期大学部全体で準備委員会を組織して、準備を進めた。</li> <li>④短期大学部3学科の学科長と中期計画委員を中心に、平成26年度からの短期大学部中期目標・中期計画を策定した。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各委員の責務の自覚と、学科への迅速なフィードバック</li> <li>②新しいアイデアはどんどん採り入れて学生の確保に取り組んでいるが、成果がなかなか上がらないので、さらなる施策の必要性を痛感</li> </ul>
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○短期大学部50周年記念事業を実施したところ、概ね好評であり、学科を越えた教員間の関係もできつつある。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○厚労省へ提出する介護福祉士関連の書類について、期限内の提出・保管の徹底化等を図る必要があると同時に、教員と事務との作業分担についても検討が必要</li> </ul>

目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価		学科用評価シート	組織名称（評価单位名称）	製菓学科
項目	自己評価			
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①「菓子作りは人（学生）作り」との考えに基づき、専任教員が情報を共有しながら学生個々の資質に合わせて、専門教育科目における領域（製菓の知識・製菓の技能・製菓の広域）ごとに知識や技術の伝授を行い、学生4～5名でのチームワークを図りつつ菓子作りの大切さを指導、学習させた。</p> <p>②「販売実践」の授業で製作した製品を実際に販売する体験を通じて大量生産、商品管理、販売技術、金銭管理などを実践的に学ぶ内容は、学生にとって魅力的な授業科目になっている。</p> <p>③『ベーシックセミナー』を通して担任と学生のコミュニケーションが高まり、学生個々の個性を担任が認識できて教育効果が高まった。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①日常的な礼儀作法ができない学生もおり、挨拶の必要性、大切さを我々教員も認識しながら授業を通して指導していきたい。</p> <p>②学生によって科目に対する興味、意欲の持ち方に差があり、授業に対して積極的に取り組むように指導したい。</p> <p>③基礎学力の補充に関してはそれに関する取り組みはしていたものの、効果はあまり得られなかった。授業の理解を通して基礎学力を補充する方法を検討していきたい。</p> <p>④社会教育（市場調査、美術館見学など）を通して、学生の教養、製菓に関する意識の向上に努めたい。</p>			
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①製菓学科で特選した洋菓子・和菓子のレシピを掲載した小冊子『Happy Sweet vol 2』を発行した。</p> <p>②今年度初めての試みとしての製菓に関する紀要を発表し、学科教員が研究などに値する製菓学科業務を遂行した。</p> <p>③「大学は美味しい！！」フェア平成26年度用の和、洋菓子の新商品の開発を行った。「なごみの米屋」との「メジゾーどら焼き」の共同製作を新たに実施した。</p> <p>④青森県立保健大学から、本学科助手とのコラボ商品開発をきっかけに、青森から地元の名産品を提供して東京にある本学と共同で商品開発等を検討したいとの申し出があった。大学間連携の有効な先例として、今後の展開が期待できる。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>製菓という分野の性質上、学術論文等の作成、発表は本学設置の他学部・学科分野に比べて困難であることから、平成26年度以降も以下①～⑤のような実践活動をもって本学の研究活動としていくことを再検討している。③④は、「大学は美味しい！！」フェアにおける「なごみの米屋」との共同製作や販売という形で平成26年度から実現できており、今後の発展を期したい。</p> <p>①学内注文からの製品製作のレシピなどの確立。</p> <p>②製菓に関する出版業界からの製品製作依頼、取材撮影及びレシピ等の公開。</p> <p>③イベント出店、参加、販売など。</p> <p>④企業、教育機関との製品共同開発。</p> <p>⑤学内紀要への積極的な投稿。製菓に関する知識、技術的なことを発表し、学科教員の学術研究の発表の場としていきたい。</p>			
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①学業面、生活面など学生個々が抱える問題などについて、担任を中心に学生の情報を教員一同が共有し個人面談などで丁寧に対応し適切なアドバイスをした。</p> <p>②保護者会の開催で在学生、卒業生に来校して貰い、就職活動の流れ、就職してからの人の接し方、業務の把握方法などを発表してもらい保護者との細やかな情報を共有し密なる構築に努めた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①キャリアセンターとの協力、連携を密にして、業界に対する求人の呼びかけを強め、学生の就職先の選択肢を多くする。</p> <p>②就職活動に対する指導の徹底を図りたい。就職活動の流れ（進め方）を理解していない学生もいるようで、順序立てた指導が必要と考えている。学生が就職するということに取り組める体制作りをして、就職率のさらなる向上を図りたい。</p> <p>③業界で現場に従事している技術者、及び若手経営者を招聘して講話を受講する授業を設ける。</p> <p>④現代の若者の言葉遣いが乱れているものと思ひ、授業（日本語表現Ⅰ、Ⅱ）を通して是正できないかと思う。</p>			
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①桐和祭での商品販売、喫茶販売などを通して、地域の方々と交流を図り、菓子の魅力を伝えることができた。</p> <p>②「親子菓子作り体験教室」の実施により、地域社会に「菓子作り」を通して貢献できた。</p> <p>③「販売実践」の授業における売り上げ金全額を、東日本大震災への義援金日本赤十字社に継続寄付した。</p> <p>④「第5回大学は美味しい！！」フェアで当初目的を上回る売り上げを達成し、製菓学科の存在を最大限アピールできた。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①社会に対して「製菓」をもとにどのような貢献ができるか、を学生と教員と一緒に考える時間を作り、菓子作りを通した社会貢献の方策を継続検討していきたい。</p> <p>②「親子菓子作り体験教室」を通して、近隣の子供に菓子作りの楽しさ、親子で菓子を作ることの楽しさを体験させたい。</p> <p>③高校教員を対象とした体験実習を充実させ、製菓学科の教育力を理解してもらい、高校の教員を通した社会貢献活動を継続したい。</p>			
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>①短期大学50周年記念行事に関して和・洋菓子担当の各教員一致協力の下「工芸菓子」の大作を制作展示し、製菓学科の存在を知らしめることができた。</p> <p>②その「工芸菓子」の展示を通して本年度のオープンキャンパス、一日体験入学等に参加した高校生に製菓学科の技術力を誇示できる存在をアピールできた。</p> <p>③昨年度までは休日実施のイベントは教員全員で対応であったため、連続出勤もあり、問題であった。改善策としてイベント内容によって助手、教員の出勤を交代制にしたことによって休日出勤の減少を図ることができた。</p> <p>④「桐和祭」の喫茶、菓子販売、及び「親子一日体験教室」などを通して学生の協力の基、地域社会の貢献できた。</p> <p>⑤AO入試の方法を改善した（1dayAO）結果、AO入試に関して入学志願者数は増加した。志願者全体の増加には繋がらなかった。今後、入学志願者を増加する方策を引き続き検討する。</p> <p>(2) 今後の課題</p> <p>①入学定員の確保に向けて高校生への体験実習参加促進、オープンキャンパスや高校訪問を通した入学志願者獲得活動を強化する。</p> <p>②入学者の増加を目指して、入試方法の複数化や高校教員対象の体験実習の拡大、高校への出張授業の実施・拡大を検討する。</p> <p>③学科教員が相互の理解のもとにコミュニケーションを図り、充実した業務を遂行できるようにさらにより良い環境作りをする。</p> <p>④今後も増加が見込まれる学内注文に対しては、学科にとっての広報価値の有無を見極めた受注を行う。</p> <p>⑤企業、高齢者施設、教育機関などとの相互協力を検討する。</p>			
その他	<p>(1) 特筆すべき事項 特になし</p> <p>(2) 今後の課題 ○平成24年度にはじめて開催した「卒業生の集い」を発展させ、将来的には「製菓学科・校友会」の足がかりとしたい。</p>			



目白大学・目白大学短期大学部 自己点検評価	学科用評価シート	組織名称（評価単位名称）	ビジネス社会学科
--------------------------	----------	--------------	----------

項目	自己評価
教育	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ベーシックセミナーで使用するオリジナルワークシートを作成した。</li> <li>②販売士1級のための時間外講座を実施した。</li> <li>③フィールドごとの学外研修を実施している。</li> <li>④キャリア教育のためのインターンシップを強化した。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①新しい科目の教材開発を行う。</li> <li>②新カリキュラムへのスムーズな展開を目指す。</li> <li>③協調性、先見性、問題解決力を培う授業の具体的な輪郭を検討する。</li> <li>④卒業研究に向け、意欲的な学びを引き出す授業の展開を目指す。</li> </ul>
研究	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①各専任教員が個人の研究目的を設定し、研究活動を行った。</li> <li>②複数の専任教員（鈴木健之、小長谷悠紀の2名）が科学研究費を継続（平成24～27年）して獲得している。</li> <li>③海外の研究者との共同研究プロジェクトを組織した。</li> <li>④教育先進国のニュージーランドで教育施設の調査、研究を行った。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○短大全体での教育方法研究会を組織する。</li> </ul>
学生指導	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①オフィスアワーに学生を随時呼び出し、学習面、就職活動の指導を行っている。</li> <li>②社会的マナーや礼儀について、外部の指導者等を招き指導を行っている。</li> <li>③キャリアセンターによる指導以外にも、学科専任による細かい指導を行っている。</li> <li>④スポーツフェスティバルや桐和祭等の学校行事は1年生全員が参加するように指導を行っている。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○より徹底した出席率向上のための指導を行っていく。</li> </ul>
社会貢献	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ボランティア活動への学生の積極的な参加を実現した。</li> <li>②東日本大震災被災地でのボランティア活動を行った（被災地である石巻市の仮設住宅を訪問し、高齢者の方々とのふれあいボランティアを行った。教員1名、学生7名で実施）。</li> <li>③震災復興のプロジェクトと子供の食育向上のためのプロジェクトに参加した。</li> <li>④国産株式会社が行う環境ビジネス支援事業に学生が参加し、その中の「食におけるムダをなくす支援事業」に取り組んだ。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①エコロジーに関連する活動をより推進していく。</li> <li>②学生のボランティア活動に対して継続的に支援を行っていく。</li> </ul>
組織マネジメント	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①学科会議以外にもこまめに会議やミーティングを行うことで、学科内の連携を図っている。</li> <li>②短期大学部全体のイベント等を通して、学科間の連携を積極的に行った。</li> </ul> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①非常勤講師との密なコミュニケーションを図る努力をする。</li> <li>②科目内容の検討と科目間の連携を図っていく。</li> </ul>
その他	<p>(1) 特筆すべき事項</p> <p>特になし</p> <p>(2) 今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成26年度に認証を受ける第三者評価に向けて最善の努力を図っていく。</li> </ul>